2019年　冬（107）号

愛隣館研修センターニュース

〒612-8141 京都市伏見区向島二ノ丸町 151　Tel:075-621-3849　Fax:075-621-1579
E-mail:airinday@sunny.ocn.ne.jp　http://www.airinkan.net　振替:01020-5-39321
編集発行所:社会福祉法人イエス会 愛隣館研修センター　発行責任者:平田 義

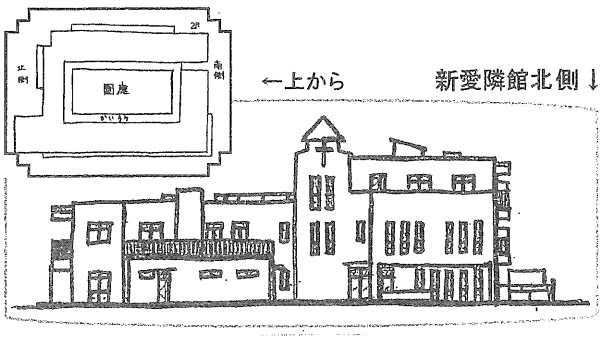
107号

インクルーシブ社会の実現を「愛隣館」建て替えます！

「愛隣」とは「隣人を自分のように愛しなさい」という聖書の言葉から引用されたものです。「隣人」とはただ単に近くにいる人のことを指すのではありません。この社会の中で、様々な要因によって「その人らしく生きる」ことが許されない状況に追いやられ、傷つき、苦しんでいる人たち、また、いわれのない差別や偏見により、疎外されている人たちのことを「隣人と」定義しています。そのような「隣人」を大切にしていくことが私たち「愛隣館」の基本理念であります。この理念を大事にしながら、これからも地域の皆様のご理解、ご協力の下、活動を続けていきます。ご支援のほど、よろしくお願いいたします。

Q:愛隣館、建て替えるんですね？
A:そうなんですよ。建て替えの話は5年以上前から出てたんですけどね…
Q:そうやったんですか？なんで建て替えることになったんですか？
A:京都市の住宅施策で、巨椋池の干拓地に向島ニュータウンが造成され、入居が開始されたのが1977年です。その1年後の1978年に、ニュータウンの真ん中に、90人定員の野の百合保育園と30人定員の知的障がい児通園施設・空の鳥幼児園が開園しました。
Q:築40年以上経過してるんですね。
A:そうなんです。雨漏りや配管の詰まりなど老朽化が始まってきてたんです。ただ、老朽化してきているから建て替えるのでなく、新たな"ねらい"を意識してやることにしたんです。

Q:ほう。その新たな"ねらい"って何なんですか？
A:インクルーシブな社会の実現を目指すということです。
Q:インクルーシブな社会ってどういうことですか？
A:インクルーシブっていう言葉は、すべてを含んだっていう意味です。この社会の中には、様々な方が生活されています。一人一人は人種や民族、国籍、障がいの有無、性別（性自認，性的指向）、社会的地位など多様性に富んでいます。インクルーシブな社会とは、その違いによって、疎外されたり、排除されたりすることがなく、一人ひとりが尊重にされるっていうことです。
Q:新しい建物で、それを目指すっていうことは、具体的にどんなことをイメージしてるんですか？
A:一つは、愛隣館では、保育所である「野の百合保育園」、障がい児通所事業の「空の鳥幼児園」、障がい者通所事業の「愛隣デイサービスセンター」、「シサム」などの事業を行っています。まずは、愛隣館を利用される方々が、それぞれの多様性を認め合い、一人一人を大切にしていく環境をつくろうと考えています。そのために、出入り口を共通にして、いろんな人が出会っていけるようにしています。
Q:まずは、お互いを知っていくということですね。
A:そうです。建物も回廊型に設計して、お互いが自然と顔が見えるようなしかけをつくっています。
Q:他にはどんなことを考えているのですか？
A:愛隣館を利用される方々やスタッフと地域の方々との出会いの場も積極的につくっていきます。
Q:どんなことを考えているのですか？
A:出入り口の近くに地域交流スペースをつくります。そこで、一緒にクッキングをしたり、映画を観たりなどの交流ができるように考えています。
Q:楽しみですね。



二ノ丸学区避難訓練から考える
―二ノ丸自主防災会会長　矢吹文敏さんに聞きました！

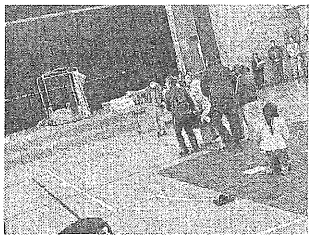
出口剛史

11/17（日）二ノ丸学区避難訓練が元向島中学校（愛称：むかちゅうセンター）にて実施されました。避難所運営訓練等（急病人の対応を避難者で考えてもらう等）を行いながら、これからの防災についてや向島地域が向かうイメージについて、二ノ丸自主防災会会長の矢吹さんにインタビューをさせていただきました。避難訓練にとどまらない発想で、これからの地域がいきいきできるエッセンスをたくさんいただきました。みなさんもぜひご一読ください。

↑矢吹さん

出口：二ノ丸学区の避難訓練が、今回は初めてむかちゅうセンター（旧向島中学校）で実施されました。
矢吹さん：例年以上に事前準備が大変だった！器材の運び込みとか、区役所や消防のやりとりとか。

出口：訓練当日はいかがでしたか？
矢吹さん：避難者が急に体調を崩したという想定で、救護室に担架で運んだり、心臓マッサージをしたり。「あいりん」の佐藤さんが病人役で、いい演技をしてくれたよ（笑）


↑担架で運ぶ様子

出口：一方で、今回の避難訓練で課題はありましたか？
矢吹さん：参加している人の年齢層が高いね。役割を担っている人は関心が高いけど、それ以外の人はそもそも関心が薄いというか…。

出口：「向島まちづくりビジョン」で「防災」ワーキンググループに取り組んでおられます。
矢吹さん：向島地域の5学区の関係者が集まるのはいいこと。顔と名前が分かる関係から、情報を共有する場は必要だよね。たとえば、子どもたちから避難訓練や防災のアイデアを出してほしいし、学校側とそういう話をしようと思ったら、やっぱり5学区の連携みたいなものは大事だと思う。

出口：子どもがアイデアを出してくれたら、つられて大人も関心が高まるかもしれないですよね。
矢吹さん：そう。たとえば、上の階に避難しなきゃいけないってなったとき、ロッククライミングで登るとか（笑）。

出口：矢吹さんが自主防災会会長に就任されて2年、色々な変化が起こっているという話を聞いています。
矢吹さん：自覚はないなぁ（笑）。まぁ自主防災会の連絡会とか、最初は私が「場違い」みたいな感じだったけど、それが災害に対する意識の変化のきっかけになるなら嬉しい。

出口：こんな自主防災会になればいいな、というイメージはありますか？
矢吹さん：さっきのロッククライミングじゃないけど、色々なアイデアを言い合える場は必要だと思う。それに、今は「自分の身は自分で守る」がちょっと強すぎるというか、何かにつけて「自己責任」にすり替わっちゃう。災害は公平に訪れるんだから、やっぱり共助としての機能も求められるのかな。

出口：矢吹さんは日ごろから「何かあったときに助けてもらえるように仲良くしておこう」というスタンスですよね？
矢吹さん：まぁ人間だから無理して仲良くなる必要はないけど、せめて「誰がどこにいるか」と把握しておくことは必要なんじゃないかな。つまり、普段から人の悪口は言わないってこと（笑）

出口：もうすぐ愛隣館はむかちゅうセンターに引っ越しますが、何か期待されることはありますか？
矢吹さん：防災も含めて、「地域をどのように巻き込むか」というアイデアは出し合っていきたい。ゆくゆくはむかちゅうセンターは防災センターのような拠点になってほしいと願っている。愛隣館でそういう既成事実をつくってほしいな（笑）
愛隣館の職員はこの向島地域に住んでいない人もいるだろうけど、そういう外部の視点というか気づきは絶対必要だと思う。

出口：生まれ変わる愛隣館へのご要望はありますか？
矢吹さん：仮に地域としての役割と言うなら、備蓄かな。あとは障がいの有無に関係なく、誰もが集える場所になってほしい。あと、ヘリポートは無理かな？（笑）

出口：ありがとうございました。

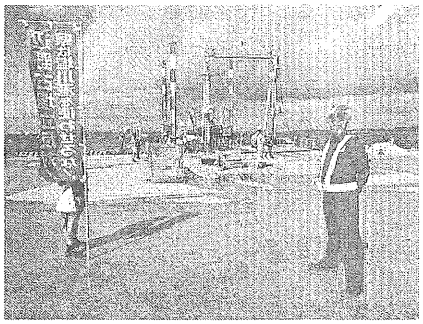
「諦めないこと」
―沖縄研修に参加して―

馬嶋亮太

２０１９年１０月２８日～１１月１日「チカラタンナーパの会」沖縄研修に参加させていただいた。今年で１０年目を迎える、京都の福祉に携わる者の有志が集う平和研修で、昨年に引き続き２回目の参加である。

「首里城６殿全焼」というニュースを沖縄で見ることは、京都で見るときと違っていただろう。伊江島で起こった２９日と３０日に米軍がパラシュート訓練中に民間地に落下した事故が報道されないことや、辺野古の海に土砂が日々運ばれる現場での基地建設反対の様子は京都のテレビ局では報道されない違和感を感じた。

１年前の辺野古、大浦湾では、フロートの再設置を阻止するために、「不屈」に乗らせていただき、海難救助の仕事のプロである海保と対峙した。そして１年ぶりに訪れた大浦湾では海岸から見える海が去年とは違っていた。その日、テント村座り込みは５６７１日目。土砂が投入される海で見かけたウミガメは、毎年同じ場所で産卵する場所を失い、途方に暮れてさまよってしまっている。その土砂は名護市安和の琉球セメント桟橋と本部町の塩川港から大型車両から運搬船に積み替えられ、大浦湾へと運ばれている。運ばれているのは赤土混じりの土砂。本来は捨てられる土であり、海を汚染させないように厳しく規制されているものである。塩川港で「子や孫のため」と座り込みやトラックの前に立ち工事を遅らせようと活動している現地の方と一緒に抗議活動をさせていただいた。


塩川にて

次から次へとトラックから運搬車へと運ばれているのにもどかしさを感じながらも、おそらく土砂運搬が進むことで儲かるだろう方から「営業妨害やめろ」とサングラスとマスクで顔を隠す強面な方からビデオカメラをむけられる状況。「なぜ妨害をするのか？」と聞かれるが、答えずにいると、ラガーシャツを着ていたからか「ラグビーやってたのか？」と聞かれる。「やってました。やってたのですか？」「おれもやってた。ラガーマンはこんな営業妨害はしない。京都ではこんな抗議活動しないだろ」「新基地ができてほしくないからここに京都から来てる」・・・人によって「正しさ」は違っている。トラック運転手もガードマンにもそれぞれの事情はあるだろう。自然豊かな山が削られ、その土が海へと運ばれる港。その塩川港から車で１０分も走れば、修学旅行生がダイビングで楽しんでいる美しい海で起こっている、両極端な光景がそこにはある。

「負けない方法は勝つまで諦めないこと」にむけて、それぞれの立場のもつ「正しさ」について話し合うこと。沖縄から平和な社会にむけて何をするべきか学び続けていきたい。

柏木正行さんの
魂に触れる

「時計」

時計は止まっても
時間は止まらない
おれは時間に流され
もう引き帰せない
あれよあれよと思うばかりで
どうする事もできない

ねじの緩んだ時計は止まる
しかし
時間は止まらない
時間は
おれの青春を押し流し
おれを
この世界から引き離そうとする

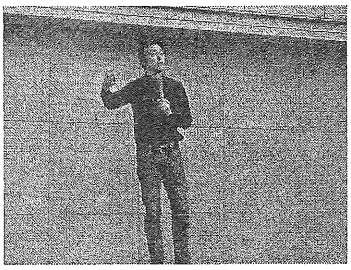
おれは
時間を侮っていた
まだまだこれからだと思っていた
しかしその実
おれが時間に侮られていた
それに気付いた時
おれは三十五歳を過ぎていたのだった

■「まっ白の闇」映画上映会 &内谷正文監督講演会　報告

出口剛史

わ、カッコいい…！

第一印象はすぐに確信へと変わる。爽やかな口調の随所に垣間見える情熱性。ジャーナリストと見間違えるような博識さ。まるで演出のような佇まい。それを際立たせる響く声。どれもがカッコいい。魅了された。



内谷正文さん(右)。

薬物依存症者を扱った「まっ白の闇」という映画の脚本・監督であり、この映画の元となったひとり体験劇を、今も各地で公演されている俳優でもある。

11月12日(火)、京都市の障がい理解・普及啓発事業の一環として、この映画の上映会と講演会をひとまち交流館で開催し、80名を超える方が参加してくださった。映画の主人公は兄に薬物を勧められたことがきっかけに、10代から覚せい剤に手を出してしまう。周囲の苦悩を嘲笑うかのように、虚しく激しく主人公は薬物に堕ちていく。藁にもすがる想いで辿りついた微かな支援の糸口から、回復の光を見出すストーリー。

映画で描かれる兄のモデルは他ならぬ内谷さん。そう、この映画は内谷さんの実体験が描かれている。

薬物依存症の悲惨な末路を伝えることに意味はある。ただ、警告と罰則だけで解決しないことは、多くの人が薄々感じているのではないだろうか。求められるのは治療の手立てと回復の道筋を示すこと。何より、人が最も弱さをさらけだし、無防備にもなりやすい"孤独感"につけこむ悪事が確かに存在するという共通認識と教育である。

映画でも強調されていた「今日一日」。「今日一日だけ薬物を使わない」ことを目標に、回復の道のりを歩む人たちの姿は、私自身の今日一日とも重なる。大小様々、葛藤や不安を抱えて生きている。多様な価値観の渦に飲み込まれそうになりながら、幻想かもしれない自分の存在意義にしがみつく。ただ、どんな今日であっても、一日を積み重ねて生きていくしかない。この現実はきっと薬物依存症の回復過程と変わらない。

そんな今日一日に押しつぶされないヒントが、小児科医で脳性麻痺がある熊谷晋一郎氏の言葉に凝縮されている。「自立とは依存先を増やすこと」。安心して寄りかかることのできる相互関係、「しんどい」ことをありのままに表出できる寛容な雰囲気こそが、積み重ねる一日の強固な土台となる。同時に孤独感を防ぐ手段や仕組みにもなり得る。

「またクスリを使っちゃうかもしれない」「だから使わないためにこの活動をしている」。最も印象に残った内谷さんの言葉。薬物依存症という病気に向き合った結果として辿りついた、内谷さんの新しい生き方であり、治療のプロセスなのかもしれない。それは一日、また一日と、続いていくのだろう。

ちなみに、現在内谷さんは三重県の芦浜原子力発電所をめぐる賛成と反対の歴史を描いたドキュメンタリー映画を製作されている。すっかり内谷さんの虜になった私は、来年のセンターニュースで新作映画の感想を書いているに違いない。

（引用：「この国の不寛容の果てに」大月出版　雨宮処凛編著）

2019年　クリスマス献金のお願い

皆様方のご理解とご支援によって支えられ、活動を続けられますこと、心より感謝します。今年度もクリスマス献金にご協力頂きますよう、お願いを申し上げます。

《クリスマス献金・要項》

目　　的：障がい児・者とその家族とが地域で安心して暮らすことができる為に愛隣館研修センターの今後の活動を支援する

目標金額：3,000,000円

郵便振替：01020－5－39321

口座名：社会福祉法人イエス団愛隣館研修センター

2019年7-11月の行事報告

7/4.14　喀痰吸引第3号研修
7/18-19　JBF長島愛生園研修
7/21　SIEA開校式
7/25　『遊隣』海企画
7/29　医療的ケア講座　講師：藤井蕗さん
8/8　『遊隣』クッキング企画
8/14-15　『遊隣』キャンプ
8/17-18　向島伝道所キャンプ
8/24　みんな食堂（むかちゅうセンター）
8/25　二ノ丸学区社協夏祭り（同上）
9/02-07　BBQ　Week
9/18　法人京都ブロック研修会
9/22　元気バザール
10/10-11　デイ・シサム一泊旅行 in 有馬
10/20　福祉まつり（鉾盾公園）
10/23-24　デイ・シサム一泊旅行 in 有馬
10/27　向島まつり（やきそば&ちぢみ&…）
11/2-3　JBF豊島研修

★お知らせ★

▽愛隣館研修センターは、12/30-1/4まで休館日とさせていただきます。

▼★編集後記★

107号のご意見ご感想お聴かせ下さい。（さ）

▼愛隣館が建て替えの暫く移転のため皆様方の地域に皆様方の地域の旧島中学校跡地利用、感謝と共に歩む共生社会を目指して（ひ）